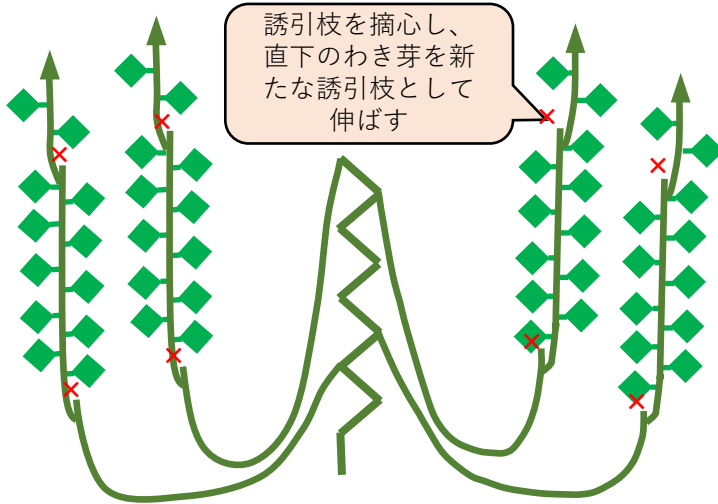


# キュウリの生体情報に基づく草勢管理技術 - 更新摘心栽培法 - (B3)

(高知農技セ) 穂崎健昌、山崎浩実

## 研究概要

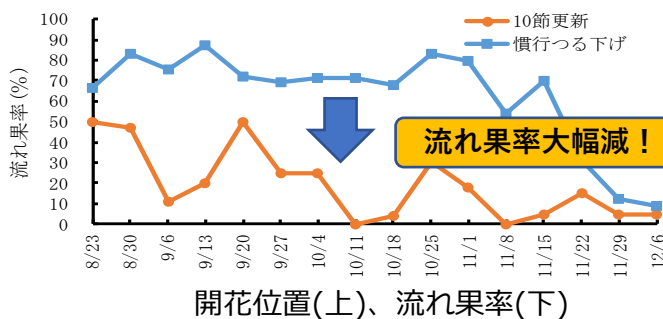
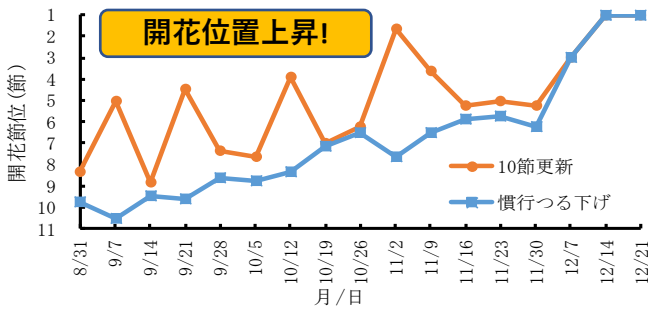
キュウリの抑制、半促成の年2作体系とした作期前進栽培において、10節展開毎に更新摘心を行うことで、慣行つる下げ栽培に比べて開花位置を高く、流れ果率を著しく減少させることができ、多収生産が可能なことを明らかにした。さらに半促成栽培においては開花節位に基づいた更新(6節以下で更新(10-6更新栽培))により、さらに収量が増加することを明らかにした。



更新摘心の模式図

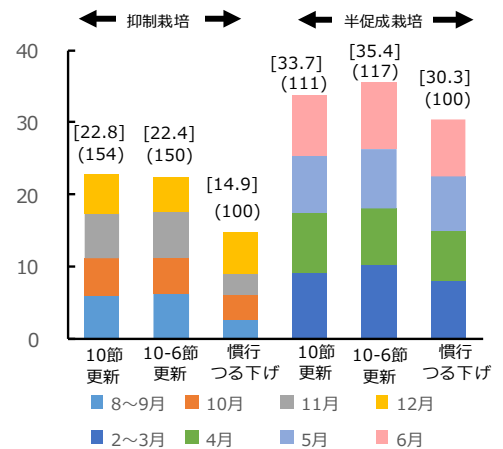


摘心部(×)と新たな誘引枝(→)の発生の様子



開花位置(上)、流れ果率(下)

更新摘心で大幅な増収!  
半促成栽培では開花節位に基づいた更新(6節以下で更新)でより収量増!



注) []は全期間の収量、()は各作型での慣行つる下げに対する収量比を示す

可販果収量

## 今後の展開

安定、多収生産に寄与する草勢管理技術として農業者への啓蒙と普及を図る。